

製品名: Pax-5 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15789**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	42kDa

抗原情報

遺伝子名	PAX5
別名	PAX5; Paired box protein Pax-5; B-cell-specific transcription factor; BSAP
遺伝子 ID	5079.0
SwissProt ID	Q02548
免疫原	抗血清はヒト PAX5 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 171-220

背景

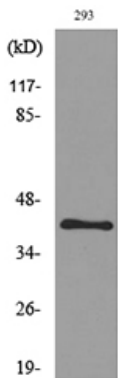
この遺伝子は、ペアボックス (PAX) 転写因子ファミリーのメンバーをコードしています。この遺伝子ファミリーの中心的な特徴

は、ペアボックスとして知られる、新規かつ高度に保存された DNA 結合モチーフです。ペアボックス転写因子は初期発生における重要な調節因子であり、その遺伝子発現の変化が腫瘍性形質転換に寄与と考えられています。この遺伝子は、B 細胞分化の初期段階で発現しますが、後期段階では発現しません。この遺伝子の発現は発達中の中枢神経系および精巣でも検出されているため、コードされているタンパク質は神経発生および精子形成にも役割を果たしている可能性があります。この遺伝子は 9p13 に位置し、形質細胞様サブタイプの小リンパ球性リンパ腫および派生大細胞リンパ腫で再発する t(9;14)(p13;q32)転座に関与しています。この転座により、強力な E-mu エンハンサーが発現します。発生段階:B 細胞分化初期、発達中の中枢神経系、および成人の精巣で発現します。疾患:PAX5 が関与する染色体異常は、急性リンパ性白血病の原因です。転座 t(9;18)(p13;q11.2) は ZNF521 と関連しています。転座 t(9;3)(p13;p14.1) は FOXP1 と関連しています。転座 t(9;12)(p13;p13) は ETV6 と関連しています。機能:B 細胞分化、神経発達、精子形成において重要な役割を果たす可能性があります。B リンパ球特異的標的遺伝子である CD19 遺伝子の調節に関与しています。PTM:O 型グリコシル化されています。類似性:1 つのペアドメインを含みます。サブユニット:DAXX と相互作用します (類似性による)。モノマーとして DNA に結合する。TLE4 に結合する。

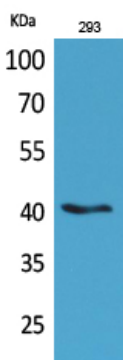
研究分野

神経科学、神経プロセス、神経発生、エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、ドメインファミリー、発達ファミリー、PAX

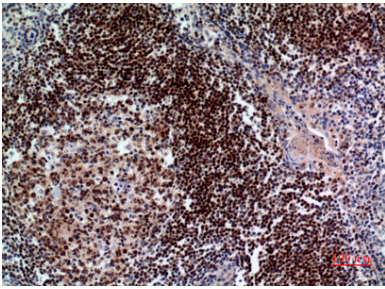
画像データ



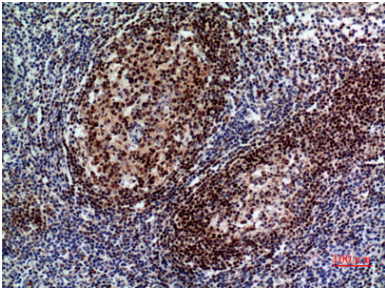
PAX5 抗体を使用した 293 細胞溶解液のウェスタン ブロット分析。



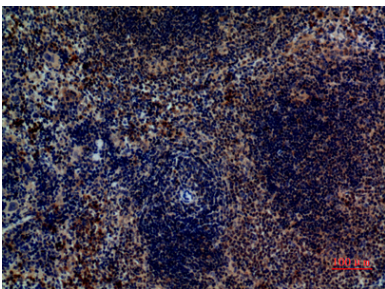
Pax-5 ポリクローナル抗体を使用した 293 細胞のウェスタン ブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。



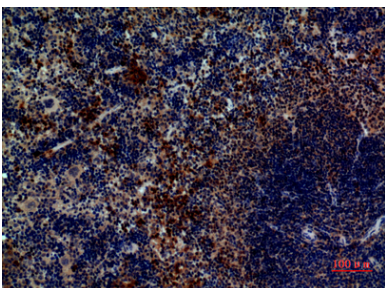
パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス脾臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋マウス脾臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された